

漢字は体験を呼び起こす信号である

“重い”“軽い”という漢字は、二つのマッチ箱を用意し、これに、それぞれ“重い”“軽い”という漢字カードを貼り着けます。“重い”というマッチ箱には、釘か鉛でも詰め、“軽い”というマッチ箱には、綿を詰めておきます。

“長い”“短い”という漢字は、二本の使い古しの鉛筆でも用意するとよい。長い方の鉛筆に、“長い”という漢字カードを紐で結び着け、短い方の鉛筆に“短い”というカードを結び着けておけばよいのです。

こうして、漢字の持つ意味を、体験を通してよく理解させることが大切です。漢字は、その体験を呼び起こすための信号なのですから、体験を通して理解しないことには始まりません。漢字と体験とがよく結び着いていて、漢字を見れば、一瞬のうちにその体験が頭の中に甦って来るようになければなりません。

それには、生活の中で、生活に密接した体験をさせると同時に、これを漢字に結び着けて記憶させる工夫が大切です。

脳障害児、郁子ちゃんのお父さんは、この子に“牛”という漢字を教え

るために、数十キロも離れた牧場に一日がかりで出掛けています。実際の牛を見なくては、いくら“牛”という漢字が読めて、それが筆順正しく書いても、その価値は半減します。

勿論、すべてを体験することは幼児にとって困難というよりも不可能というべきでしょう。牛だって、写真や絵本で間に合わせなければならぬ場合が多いかも知れません。しかし、同じ“牛”という字を見ても、それが実物の生きた牛を思い浮かべるか、絵本の牛を思い浮かべるか、では大変な違いがあるのですから、なるべく労を惜しまないで、実物体験を通して漢字を教えて頂きたいと思います。その方が、幼児が漢字を覚える意欲を一層強めることにもなるのです。